

## 吉野ゆりえさんの地震医療ネットへの投稿

\*吉野ゆりえさんから許可を頂いて pdf 化いたしました。転送は自由に行って頂いて結構です。(地震医療ネット事務局)

---

### 福島県民の持つ「捨てられた感、裏切られた感」を払拭すべき！

皆様、いつも大変お世話になり、ありがとうございます。  
肉腫患者の吉野ゆりえです。

実は、ある官僚の方から、福島県双葉郡の方々の生の声を聞きたい、とのご連絡がありました。

私は福島の出身ではないのですが、かなりご縁があって、福島の地元のメディアに出演させていただいたり、知り合いもたくさんいます。

第二の故郷といったところでしょうか。

そこで、福島の地元のメディアの方に連絡を取らせていただきました。

すると、以下のようなことを伺うことができました。

これは皆さんもご存じでしょうが、双葉町の住民は埼玉へ、檜葉町は会津美里へ、広野町は田村市常葉へ、浪江町と富岡町の方はバラバラに移動しているとのことでした。

中には？（かなりの方が？）、「もう町へは帰れない」と覚悟を決め、ご自分でアパートを借りている方もいらっしゃるようです。

でも、住民票を移したいけれど、行政が機能していないところもあるようです。

その官僚の方も、いわきや相馬の情報は入るけれど、双葉の情報は無いんですよ、とおっしゃっていましたが、もちろん退避しているので仕方がないと思います。・・・福島の方から「今、報道の人は福島から逃げているんだよ」とお聞きしました。

あるテレビ局は、ディレクターが取材に行きたいと言ったら、会社から禁止令がでたそうです。

少数いる報道関係者も、マスクに手袋をして、ガイガーカウンターをぶら下げて、その数値を言い合ったりしていて、これが県民にはかなり反感を持たれているようです。

そんなことをしているから風評被害がでるんだということで、自分たちでその風評被害を無くしたいと、「僕たちはマスクをしないよ」とおっしゃっていました。

ある地元メディアでは「マスク禁止令」が出ているそうです。大丈夫だという意志表示、精一杯の抵抗のようです。

また、医療関係者も逃げた、と思われているようです（涙）

県外からの看護チームの数を示されました。

岩手県76チーム、宮城県56チームに対して、福島県2チームだそうです。

福島県立医科大学の入学者も、放射能が理由で、入学を辞退した方がいるそうです。

「医療者はやはりダメだよね」と言われ、がんばってくださっている方々もここにいらっしゃるのにと、患者ながらにととても哀しく思いました。

また、福島に物を送るにも、今は「福島料金」というものが加算されるそうです（宅急便なども）。

そして、地震の被害の大きかった浜通りには重機も入って来ないので、復旧作業もできないそうです。

「がんばろう！なんて言われても、何をがんばればいいんだ！」と怒っているそうです。

「政府も報道も医療関係者も逃げた！信用できない！」と怒ってらっしゃるのが、ひしひしと感じられました。

ここからは、地元の方からお話を伺って、私の感じたことです。

「何故彼らは逃げたのか？そして、自分が逃げるなら、国が責任を持つから私たちにも逃げろと、何故言わないのか？」と、怒ってらっしゃるように思います。

福島県民は、双葉郡の方々は、これまで原発の恩恵に預かってきたことは、ご自分たちも良くわかってらっしゃいます。

だから、最初は文句を言わず、我慢をしていました。

しかし、政府が逃げたこと（現在、原子力安全・保安院は原発から50km離れた郡山に撤退）、東電の幹部もいなくなったことで、自分たちは捨てられた、裏切られたと思うようになったのです。

早くに、この「捨てられた感、裏切られた感」を払拭しないといけないと思います。

下記は、私の大学のクラスメートの松田公太参議院議員（みんなの党・タリーズ・ジャパン創業者）のブログです。

先日、彼のブログの内容がウォールストリートジャーナルに掲載されたのですが、私も全く同感です。

菅総理が、現地20～30km圏内に行って指揮を取り（東電の幹部も戻り）、出荷制限された以外の野菜を食べて（かいわれの時みたいに！？）、福島県民に国民にデモンストレーションすべきではないでしょうか。

県民の不満も、国民の不安も、風評被害も、すべて政府がつくっていると思います。

何もわからない一がん患者が生意気なことを言って、大変申し訳ございません。

ただ、岩手も宮城も皆様方のご尽力でかなり状況が改善されてきているように見受けられます。

しかし福島は、震災だけでなく原発による風評被害で、環境だけでなく、心身ともに深く傷ついています。

何とか救うことはできないものかと、心を痛めております。

吉野ゆりえ

（松田公太議員のブログから抜粋）

皆さんはウォールストリート・ジャーナル（WSJ）を御存じでしょうか。

ニューヨークで発行される米国ナンバーワンの新聞で、国際的にも強い影響力があります。

そのWSJ.comのJapan Real Time面（2011年3月30日・Yoree Koh記者）に、私のブログが記事になっていました。

（エイプリルフールではありませんw）

タイトルは [ 国会議員から菅首相へ：ジャックバウアーを見よ ]

内容は “Upper house lawmaker Kouta Matsuda said Prime Minister Naoto Kan could learn a lesson or two from “24,” the intense TV show...”  
[ 松田公太上院議員（＝参院議員）は、菅首相は 24 から一つや二つは学ぶべきだと言っている・・・ ] と始まります。

そして [ 24 は現実のものではないと松田氏は分かっているが、「クライシス・マネージメント」のレッスンを受ける事は出来る。（ストーリーの中でパーマー大統領が、あえて放射能降下物の危険性がある LA に戻ったように）枝野官房長官は安全だと言うなら、福島原発の半径 20km～30km で記者会見をするべきである。それが出来ないなら、避難命令を即刻出すべきだと主張している。 ] と締めくくられています。

今まで何度か WSJ には載せて頂いていますが、この記事は内容がとてもアメリカらしい仕上がりで、良かったと思います。24 を観た事がある世界中の人々に伝わったのではないのでしょうか。

やはり、分かり易さが大切です。

ご興味のある方はこちらからどうぞ

<http://blogs.wsj.com/japanrealtime/2011/03/30/lawmaker-to-kan-watch-jack-bauer/>